

フレコンバック充填設備の簡略 合理化が可能 **APM10007a**
フレコンバック連続計量充填機

アワジ

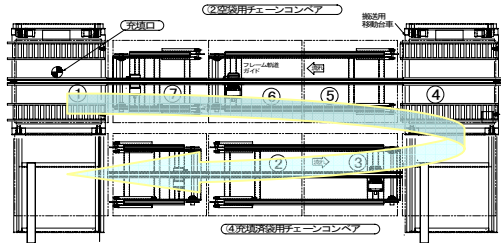
セットした7個のフレコンバックに連続で自動計量充填します。セットした空のフレコンバックはコンベア装置により自動で計量、充填機に排出、供給することができます。充填されたフレコンバックはコンベア上に並べられ、リフト等で排出されるまで待機しています。

充填時間が多くかかる場合には夜間の無人運転が可能になり、合理化が可能

設置するフレコンバックの個数、配置レイアウトはユーザー工場レイアウトに合わせて設計します。

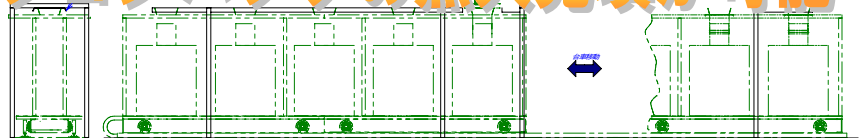
計量の充填方法は重量ハカリ、タイマー、レベル計感知式様々あり、コストと設置スペースで選ぶことができます。

フレコンバックに粉が入りきらない場合は当社の脱気充填機にて充填すれば、粉のかさ密度を減らすことが可能です。



APM10007a Example

フレコンバックの無人充填が可能



APM10005a Example

並べたフレコンバックに順次粉を充填していきます。

前工程で製造した粉を大型タンクに貯めることなく直接、フレコンバックに粉を投入すれば、設備費、場所、時間のコストダウンになります。

無人運転中は事務所のパソコンで機械の制御モニタが可能

特徴

● 自動供給

フレコンバックはコンベア装置により計量充填機へ自動で供給排出が行われます。設計段階ではコンベアの大きさ(セットできるフレコンバックの数)はユーザー様要望に合わせて設定可能です。

自動開閉袋クランプ



● 合理化
無人運転

フレコンバックにまとめて製品を充填できるので、作業時間の合理化・短縮が可能です。
 夜間にまとめて無人自動充填させておいて、次の日の朝から倉庫へ輸送することが可能になります。

● 設備の簡略化

粉碎、乾燥等の設備から大形ホッパータンクに貯めずに直接フレコンバックに充填することで、設備の簡略化が可能です。
 ホッパーの清掃、メンテナンス、ブリッジ等の保守が省けます。



● 充填

フレコンバックに粉が入りきらない恐れのある場合には、**脱気装置**、ユーラスモータ等にて粉のボリュームを減少させる必要があります。

秤量

500,1000,2000,3000Kg

袋形態

フレコンバック

ハカリ最小目盛

500g

オプション

- プリンタ
- チェッカー (充填機との連動印字可能)
- 粉体供給用コンベア
- スクリュー式粉体脱気装置
- パソコンによる運転制御



パソコンでモニタ

事務所のパソコンで機械の稼働状態をモニタ、制御することができます。パソコンを使えば機械の稼働状態のデータログを残すことも可能なことは勿論、製品データを保存して品質管理に運用することもできます。さらに社内ネットワークにつなげれば、どこにいてもモニタが可能。